

# 第4回「日本のODAを変える会」 「市民の参加と理解：開かれた国際協力をめざして」

日本テレビ報道局ニュース編集部  
(NEWS ZERO チーフプロデューサー)  
伊佐治健氏配布資料 目次

日テレNEWS24サイトより

1. サミット反対デモ「洞爺湖サミットでも」 2007年6月8日付
2. サミットとNGO、不可欠となる連携 2008年7月12日付
3. 伊佐治健氏 プロフィール

## サミット反対デモ「洞爺湖サミットでも」

< 2007年6月8日 12:10 >

ブックマーク



ドイツ・ハイリゲンダムで行われているサミット(=主要国首脳会議)で7日、サミットに反対するデモが続いていた。日本人のデモ参加者は、来年に北海道・洞爺湖で行われるサミットでも反対運動を行う意欲を見せている。

ハイリゲンダムでは7日、首脳会議が白熱する一方で、警察のパトカーが周囲に出動し、会場に続く道路で、サミット開催に反対するグループとにらみ合った。警官隊は、道路に座り込んだ活動家を一人ずつ運び出している。法律上、形式的でも理由を説明した上でないと手をかけることはできない。デモ参加者は「警察がおとなしいのは、マスコミがいるからさ」と話している。

また、反対派グループが寝泊まりしているテント村で、日本人の姿も見られた。反対グループの日本人は「来年、洞爺湖でサミットがあります。様々な労働組合やNGO(=民間活動団体)が日本でも(活動を)考えている。(Qこのようにキャンプを張って?)そうですね。北海道は広いですからね」と話した。

来年、サミットが開かれる洞爺湖の周辺にも反対派グループが集結することが予想され、同様の混乱が懸念されている。

このニュースをメールで伝える

このニュースをブログに書く

<div><p><a href="http://www.

## サミットとNGO、不可欠となる連携

< 2008年7月12日 21:35 >

ブックマーク     

9日に閉幕した北海道洞爺湖サミットでは、日本開催のサミットとしては初めて、NGO(=非政府間機関)が国際メディアセンターに拠点を持ち、様々な形で関わった。

北海道洞爺湖サミット開幕前の今月2日、イギリス・ロンドンの日本大使館前に奇妙な集団が現れた。この集団は「エンド・ウオーター・ポバティー」で、発展途上国における水道とトイレの設置を呼びかけるNGOグループだ。

「NGO先進国」と言われるイギリスの中でも、豊富な経験と資金力で貧困撲滅を目指すNGO「オックスファム」は、政府の政策立案にも関与していて、世界各国で活動するメンバーの経験と情報が武器だ。

今や1兆ドル規模の資金が動くというNGOの世界。その存在は無視できないものになっている。今回の北海道洞爺湖サミットには、オックスファムの幹部、ジェレミー・ホブス氏がイギリス本部から北海道の会場に乗り込んだ。

今回、日本でのサミットとしては、NGOは初めて国際メディアセンターに入ることを許され、ワーキングスペースも設けられた。オックスファムの日本人スタッフ・山田太雲さんとイギリスから到着したホブス氏は早速、ミーティングを開始した。

こうしたNGOを前に、今回、政府はオックスファムなど14のNGOを官邸に招き、話を聞いた。サミットの焦点である地球温暖化や食糧問題では、民間からの情報は欠かせないからだ。国際メディアセンター内には記者会見場も設けられ、連日大盛況となった。ホブス氏は「日本政府は、NGOに慣れていないと思う。市民社会がまだ理解できていないようだ」と述べた。

サミット開催中は、同時進行でメンバーによる会議も行われた。今回、メンバーがこだわっていたポイントの一つは、食糧価格高騰の主犯説が根強いバイオ燃料の規制問題だった。しかし、北海道洞爺湖サミットでは、食糧以外から作るバイオ燃料を奨励したにとどまり、この話し合いは結局、行われなかった。山田氏は「今回のサミットでは(バイオ燃料が)あまりにも議論されていない」と批判した。

かつてサミットを「金持ちクラブ」と批判してきたNGO。しかし、食糧や燃料の不足など地球規模の問題解決に向け、サミットとNGOは連携を強めている。

このニュースをメールで伝える

このニュースをブログに書く

<div><p><a href="http://www.





いさじ けん  
伊佐治 健

- 入社年月日： 1989年4月
- 出身地： 愛知県名古屋市

#### ■ 入社後の経歴&取材歴

89年 4月～

日本テレビ入社

報道局社会部に配属され、警視庁や東京地検の担当として足掛け5年の事件記者生活。

トリカブト事件、佐川急便事件、ゼネコン事件等取材した。

93年11月

政治部に異動

小沢一郎氏、故梶山静六氏、加藤紘一氏、小泉純一郎氏の番記者を経験。

ニュースプラス1フィールドディレクター、政治部デスクを経て、

03年～05年

首相官邸キャップ

05年9月～

ロンドン支局勤務

#### <エピソード>

事件記者時代に張り込みに使っていた8ミリビデオを、政治部に移ってからもち歩き、夜の料亭前など普段撮影できない場所でも「政治が動く決定的瞬間！」を狙った。今では記者が小さなデジカムをぶら下げていたって誰も気にはとめないが、当時の8ミリビデオは卓上クリーナーみたいに大きくてやたらに目立つ！政治家や同業他社の皆さんからは、しばしば珍しがられた、というよりはニラまれた(笑)。

#### ■ 趣味

途中下車の旅(山手線、西武線から欧州沿線に拡大中)

#### ■ 自己の特徴

万事熱中型。しばしばやりすぎてドツボにはまる。

#### ■ 信条・座右の銘

特にないが強いて言えば「犬も歩けば棒に当たる」

#### ■ これまでに最も感動した体験

小学校卒業時、クラスメートの一人が健康上の理由で別の学校に進むことになり、担任の先生の音頭で全員がフレーフレーと励ました思い出。友情と恩師の温かさが心に残る。

Copyright(C)NIPPON TELEVISION NETWORK CORPORATION All rights reserved.